

令和3年11月16日 関根川調査出現生物まとめ

横須賀市自然・人文博物館

学芸員 萩原 清司



《トレーの中の生物たち》

甲殻類：ヌマエビ、ヤマトヌマエビ、スジエビ、ヒラテテナガエビ、
アメリカザリガニ、モクズガニ
昆 虫：コカゲロウの一種幼虫、フタツメカワゲラ幼虫、ヘビトンボ幼虫、
シマアメンボ
魚 類：シマヨシノボリ、クロヨシノボリ、スミウキゴリ

〈 解説と評価 〉

過去（平成27年度、平成30年度）の関根川調査でも水生昆虫の減少が指摘されたが、今回も水生昆虫類の出現が著しく少なかった。

この原因については、良好な水質環境の生物指標とされるヤマトヌマエビやフタツメカワゲラ幼虫、ヘビトンボ幼虫などの生息が見られていることから、河川水の汚濁や汚染は考えにくい。



（ヤマトヌマエビ）関根川

ここ数年、水生昆虫の羽化期である晩春～初夏にかけて大雨、強風などによる河川やその周辺への影響が大きくなっているが、河川への土砂の流入による羽化前の幼虫の減耗、強風や塩害などによる羽化した成虫の繁殖の阻害などが生じている可能性が考えられた。



(フタツカワゲラ 幼虫)

ただ、一般に水生昆虫は成虫期に飛翔による拡散や新規加入が期待できることから、条件を整えば個体数、種類数ともに増加する可能性は十分にあるので、今後の動向に注目したい。

また、これまで継続して観察されたカワニナが確認できなかった。カワニナはゲンジボタル幼虫の重要な餌料生物で、ゲンジボタルの生息には不可欠であるが、河川への土砂流入がカワニナ自身の生息に影響するばかりでなく、餌となる付着藻類の減少をまねく。



(ヘビトンボ 幼虫)

今回の調査結果から関根川がゲンジボタルの生息が困難な状況にあることが推察できた。さらに、シマヨシノボリ、クロヨシノボリが、やせ細った状態のものが目立った。今回調査では個体の肥満度や消化管内容物の調査を行っていないため、原因の特定はできなかったが、これらヨシノボリ類は雑食性で、水生昆虫やミミズ類などの動物質のほか、藻類などの植物も食べるが、いずれの餌料生物も土砂の流入の影響を受けやすいことから、ヨシノボリ類が十分に餌をとれていないことを示しているのかもしれない。